

3DEXPERIENCE® FORUM JAPAN 2022

Virtual Twin Experiences for Resilience & Sustainability

～超 VUCA 時代を生き抜く羅針盤～

日時 11月15日(火) 10:00 - 30日(水)

オンデマンド配信

2022 MBSE CYBER EXPERIENCE SYMPOSIUM 同時開催!

MBSE Cyber Experience Symposium Japan 2022

製品からサービスへ、そしてエクスペリエンスへと、経済の主軸が変化しています。

自動車産業に例えるなら、速く安全で快適な“自動車づくり”だけが求められる時代は過ぎ去りました。これから求められるのは、今そしてこれからの利用者の生活に沿った、サステナブルな移動のあり方です。医療であれば、治療後も見据えたウェルビーイングのあり方が、都市インフラであれば、住民のQoL（生活の質）を持続的に高めるような都市運営の手法やサービスのあり方が、それぞれ求められています。

今日の産業は利用者を中心に動いています。作り手やサービスの担い手は、利用者を取り巻く社会や世界全体の目まぐるしい変化を把握し、持続可能なイノベーションを推進する必要があります。予測不可能な変化の中でも、確かな技術とデータに基づく知見があれば、目的地にたどり着くことができます。バーチャルツイン・エクスペリエンスは、目的地に向かって進み続けるあなたの羅針盤となります。

3DEXPERIENCE FORUM JAPAN が新たな改善案を見つける場となれば幸いです。

皆様のご視聴、ご参加心よりお待ちしております。

基調講演



開会のご挨拶

ダッソー・システムズ株式会社
代表取締役社長
フィリップ・ゴドブ



回復力（レジリエンス）と持続可能性のための バーチャルツイン・エクスペリエンス

Dassault Systèmes
最高経営責任者 取締役会副会長
ベルナール・シャール



BUILT-IN SUSTAINABILITY ビジネスに紐込む 必須要素としてのサステナビリティ

Dassault Systèmes
インダストリー・マーケティング・サステナビリティ担当
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
フローレンス・ベルゼイン

ゲスト講演



Technologies enabling the future of urban mobility

～未来のアーバン・モビリティの実現にむけて～

Joby Aviation
プロダクトマネージャー
アレック・クラーク 氏



京都における サステナブルスマートシティの推進

京都府
副知事
山下 晃正 氏



スタートアップ・トーク イノベーターたちが描く、持続可能な未来像 ＜パネルディスカッション＞

株式会社ストリーモ 取締役 COO 橋本 英梨加 氏
株式会社プランテックス 代表取締役 山田 耕資 氏
テトラ・アビエーション株式会社 代表取締役 中井 佑 氏

STRIEMO PLANTX tepra

PLATINUM SPONSOR

accenture

ARCO GRAPHICS

GOLD SPONSOR

KEL
東産エレクトロニクス株式会社

b-en-g
Business Engineering Corporation

FASOTEC

PROGRESS
TECHNOLOGIES

株式会社
ライトウェル

LOGO SPONSOR

imj
インターメッシュジャパン株式会社

SCSK
夢ある未来を、共に創る。

KIS

CTC
Challenging Tomorrow's Changes

DI SQUARE

※社名 50 音順

3DEXPERIENCE®, Compass アイコン, 3DS ロゴ, CATIA, BIOVIA, GEOVIA, SOLIDWORKS, 3DVIA, ENOVIA, NETVIBES, MEDIDATA, CENTRIC PLM, 3DEXCITE, SIMULIA, DELMIA および IFWE は、アメリカ合衆国、またはその他の国における、ダッソー・システムズまたはその子会社の登録商標または商標です。

Plenary Session

開会のご挨拶

ダッソー・システムズ株式会社
日本代表取締役社長
フィリップ・ゴドブ



回復力(レジリエンス)と持続可能性のためのバーチャルツイン・エクスペリエンス

長らくコロナ禍が、産業構造の大転換を加速させています。企業主導で製品を作り、販売する「製品経済」(プロダクト・エコノミー)から、最終消費者や使用者が求めるエクスペリエンスに向けて関係者全てが協働していく「経験経済」(エクスペリエンス・エコノミー)への大転換です。エクスペリエンス・エコノミーでは、「最終的にその便益を受ける人々」すなわち市民、患者、学習者、消費者といった人々が企業やその関係者に寄せる期待が、これまでとは全く異なるものになっています。エクスペリエンス・エコノミーへの転換期にあたり、私たちは、より包括的・統合的なアプローチを選ぶ必要があります。産業構造を見直すには、今ある資源を人々のエクスペリエンス向上のためにどう有効活用できるのかという視点が不可欠です。循環型経済を創造する有機的なシステム全体、すなわち「ユニバース」(領域、分野、全体)という新たな視点から、エクスペリエンスの着想・開発・生産・再生といった一連のプロセスを組み立てていかなければなりません。ダッソー・システムズは、モデリングとシミュレーション、実世界のエビデンス、VRをはじめとするバーチャルツイン・エクスペリエンスの提供を通じて、産業構造の大転換を現実のアクションへと落とし込むことができます。エクスペリエンス・エコノミーへの転換は、経済のみならず社会全体がより持続可能なものになるための先行指標であり、今世紀を象徴する大変革であると、私は確信しています。

Dassault Systèmes
最高経営責任者
取締役会副会長
ベルナール・シャール



Technologies enabling the future of urban mobility ～未来のアーバン・モビリティの実現にむけて～

本セッションでは、ジョビー・アビエーションがどのように新しいビジネスモデルに取り組み、お客様のために斬新な体験を開発しているかをご説明いたします。モビリティと交通に関する考え方を進化させるために、キーテクノロジーはどのように利用できるのか。また、急速に変化する輸送業界にどのように適応していけばよいのでしょうか。ジョビー・アビエーションは、10年以上にわたる研究開発の成果であり、安全で、クリーンで、速い移動をすべての人にとって可能にするために、電気飛行機を作っています。

Joby Aviation
プロダクトマネージャー
アレック・クラーク氏



BUILT-IN SUSTAINABILITYビジネスに組込む必須要素としてのサステナビリティ

循環型社会という大原則を現実のプロセスへと適用していくために、いま企業に求められるのは、設計から生産、使用、再利用に至るまで、製品やサービスのライフサイクル全体を把握し評価することです。限りある材料や資源で、最初から正しい方法で物事を行うためには何が必要でしょうか？循環型経済において、自社が環境に与える負荷(フットプリント)を減らし、逆に自社の事業活動を通じて環境への好影響(ハンドプリント)を与えていくためには、何をすべきでしょうか？新しいプロセスや素材、エコデザインを試すためにどのような方法があるのでしょうか？バーチャルツインを通してこれらの答えをお届けします。

Dassault Systèmes
インダストリー・マーケティング・
サステナビリティ担当
エグゼクティブ・
バイス・プレジデント
フローレンス・ベルゼレン



京都におけるサステナブルスマートシティの推進

京都府と大阪府、奈良県にまたがる「関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)」は、創設から35年が経過し、150を超える世界的な研究機関や企業、大学が立地し、我が国を代表する文化学術研究都市として成長しています。

私たち京都府は、この学研都市をフィールドに人生100年時代を如何に健康に過ごすことが出来るのか。「安寧な社会の創造」を目的に「スマートシティ」をキーワードに、立地機関だけでなく世界中から、技術やサービスが集まり新たなビジネスを生み出すオープンイノベーションを進めることでウェルビーイングな社会の創造を目指しています。

京都府 副知事
山下晃正氏



スタートアップ・トーク イノベーターたちが描く、 持続可能な未来像<パネルディスカッション>

持続可能な未来にむかって解決策を追求しているイノベーター各社を紹介。各社の紹介、それぞれが考える持続可能な未来像(=事業を立ち上げた理由)と、実現への道筋を話していただきます。

株式会社ストリーモ
取締役 COO
橋本 英梨加氏



株式会社プランテックス
代表取締役
山田 耕資氏



テトラ・アビエーション株式会社
代表取締役
中井 佑氏



DX solutions contents

企業競争力を高める「サステナビリティ経営」

「サステナビリティ経営」は、昨今あらゆる企業において社会的義務として認知されてきている。しかし、未だ規制にばかり目が奪われ、自分事として「サステナビリティ」を必要不可欠な取り組みとして捉えている企業はあまり多くないように見える。企業活動で発生するヒト・モノ・カネといったあらゆる情報に基づき、重要なサステナビリティ課題を洗い出し、解決していくことが真に競争力につながる時代、自社として取り組むべき施策は何なのか、更にお客様や取引先と連携すべき施策は何なのか。本講演では、デジタルを活用した持続可能な世界を実現していくための論点と対策をご紹介します。

 accenture

アクセンチュア株式会社
インダストリーX本部
エンジニアリング&マニファクチャリング日本統括
マネジング・ディレクター
河野 真一郎 氏

品質トラブルの未然防止と製品品質の向上につながるソリューション

昨今、自動車業界における「製品の複雑化」「生産性向上」「顧客要求」への対応が極めて重要になっています。このような中、これまで以上に「品質」について、対策を強化していくことが求められています。新国際標準のAIAG/VDA FMEAに準拠すると同時に、そのデータをPLMプラットフォーム上で連携させることが重要な施策となります。本講演では、FMEAによって抽出されたアクション内容を3DEXPERIENCEのタスクとして管理・追跡する手法と、プロジェクト全体タスクと品質タスクの進捗を包括的にチェックしていく業務適用シーンを通じて、より効果的に、製品品質の向上に繋がるソリューションをご紹介します。

 ARGO GRAPHICS

株式会社アルグラフィックス
常務執行役員
木村 俊規 氏

DX実現のためのヒントがここに！

デジタル化(DX)はどこまで進んでいますか？ここ数年の間にデジタル化(DX)に取り組む企業は大幅に増えてきています。また、今後グローバルに戦うためには企業のデジタル化(DX)実現のスピードも求められます。デジタル化(DX)を通し、生産性を向上させる事が収益向上に繋がります。本講演ではDXを実現させるためのヒントをご紹介します。是非ご聴講ください。

 KEL

兼松エレクトロニクス株式会社
兼松エレクトロニクス株式会社
デジタル・サービス本部
小林 裕之 氏

そのデータ、つながってますか？ 在庫削減・トレーサビリティ実現事例のご紹介

近年の製造業では、多発する品質問題などの企業リスクに対して、統合トレーサビリティシステムの構築が急務となっています。また、原材料の高騰により在庫削減も切実な課題となっています。DELMIA Aprisoは、MES/MOMとしてスマート工場実現の要となっていますが、これらの課題も含め、様々な課題を解決してきました。本講演では、DELMIA Aprisoのカバー範囲と果たす役割、導入の意味や意義、そして製造現場の課題解決事例を複数ご紹介いたします。

 b-en-g
Business Engineering Corporation

ビジネスエンジニアリング株式会社
ソリューション事業本部営業本部営業2部
シニアセールス
周東 啓太 氏

部品標準化にも効く。事例もあります 部品の流用や再利用化を“類似形状検索”で推進

製造業で競争力を高めるには、部品の再利用の推進が重要なステップです。在庫の削減だけにとどまらず、実績のある部品の再利用は予期せぬ不具合の未然防止にも貢献しますが、従来のPDM管理では部品を作った本人しか探せないことをご存じですか？NETVIBESは設計者のイメージしている3D形状のまま類似検索ができ、部品形状にとどまらず、コスト情報や在庫状況まで含め一覧で比較ができます。もちろん、他のCADシステムやフォルダーに保存してある3D互換フォーマットでもOK！EXALEADが3D情報比較とデータの仮想統合のタグで実現する、検索の全体最適と、様々な業務効率化についてご理解いただけます。

 FASOTEC

株式会社ファソテック
ソリューション本部 営業統括部
アカウントセールスチーム
早坂 大樹 氏

DX solutions contents

開発プロセスの課題解決に向けたMBSE活用手法

今日、開発が多様多様化、分業化の中で、製品全体として最適化することや、開発の全体を把握し、関連部署に的確に指示を出すことが難しくなっている。とりわけ自動車業界では100年に1度の変革期と言われ、電動化や自動化、コネクテッド化といった複雑なシステム開発が求められている。そのような複雑で先進性の高い開発を可能にする手法としてMBSEを用いた開発手法が注目されている。本講演では開発プロセスの中での課題解決にフォーカスを当て、ロボットアーム開発を事例に弊社ソリューションと組み合わせたMBSE活用イメージの紹介を行う。



プログレス・テクノロジーズ株式会社
技術本部 ソリューション技術部
第2ソリューショングループ グループ長
根本 雅之 氏

グローバルエンジニアリングに向けた3D活用による情報共有

取り巻く社会環境の複雑性が増し、次々と想定外の出来事が起こり、将来予測が困難な状況となっているVUCA時代においてお客様は、この世界的大変革に対応してべく、サプライチェーン強靱化、カーボンニュートラルの対応、DX取組深化など、さまざまな課題に取り組まれてると思います。今回、サプライチェーン強靱化の1つの策:エンジニアリング&サプライチェーンで重要となる3Dデータ連携において、異なるシステムによる非効率性や冗長性が生じてしまうところの課題を3DEXPERIENCEのMultiCADによる円滑なコラボレーション、グローバルなエンジニアリングを可能にするソリューションをご紹介します。



株式会社ライトウェル
PLMソリューション部 GL
渡邊 久仁雄 氏

BOMコンフィギュレーションによる業務簡素化

BOMコンフィギュレーションによって製品提供をすることで業務を効率化できることは周知の事実です。その実現のためには、市場・顧客要求を効果的に製品開発に反映し、戦略的に製品を開発していく必要があります。また昨今では予測困難な事象が世界各地で起こっており、あらゆる状況下で柔軟に方向転換できる要素も考慮しなくてはなりません。つまり競争の激しい業界で勝ち続けるための製品づくり、そこから展開するBOMとそのコンフィギュレーションこそが今までの業務を変え、新たな競争力を得る元になります。本講演ではBOM連携に加えて、競争力を得るために必要な情報の連携についても展開していきます。



株式会社ディアスクエア
シニアコンサルタント
橋本 ひとみ 氏

DXの実現に貢献するEND to END開発 3DEXPERIENCEプラットフォームによる活用

DXを実現するには、開発プロジェクトを進める関係者が繋がった情報を迅速に共有し、業務プロセス、組織、企業風土を変革しながら、より競争力の高い優位性を確立することが求められます。3DEXPERIENCEプラットフォームは、製品開発に関わるデータを全段階で連携し、データ一元管理により知見の再利用を可能にします。それにより、開発プロセスをより効率的に実施し、DXの実現に大きく貢献します。このセッションでは、開発プロジェクトで様々な情報を共有・再利用しながら進める開発プロセスについてご紹介します。



ダッソー・システムズ株式会社
クロスブランドデモチーム